

**一般財団法人三重YMCA**  
**2018年度事業計画書**  
【計画期間：2016年度～2018年度】

§1 意義

一般財団法人三重YMCAは、キリスト教精神をもとにしつつ、宗教、国、政治、人種などの枠を超えて、課題にある青少年の痛みを受け止め、彼らが個人として、また社会人として課題に向き合い、解決していく力をもった人に成長すること願い、そのために必要な諸活動を営む社会教育団体である。

また、高齢化社会にあって、彼らが高齢者になった時、そのおかれた環境のなかで、ポジティブな生き方を求めることができるよう成長することを願い、ウェルネスを諸活動の基本に置く団体である。

【年間聖句】

「ひとびとは東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。」  
(ルカによる福音書13章29節)

§2 経営理念（ミッション・ステートメント）

三重YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづき、次の使命を果たすための活動を展開します。

- 1 すべての人が、生涯をとおして人間らしく成長することを願い、ボランティアの育成と共に学び合う教育に力を注ぎます。
- 2 お互いの人権を尊重し、共に生きる福祉社会と、すべての生命が守られる環境の実現に努めます。
- 3 歴史に学び、互いの文化を理解し、正義と平和のために、世界の人びとと共に歩みます。
- 4 常に何が正しいのかを、共に考え、話し合い、実践する社会の実現をめざします。

§3 経営ビジョン（2016～2018年度達成目標）

前述のように諸々の課題がありますが、未来を見つめつつ歩みたい。

- 1 プログラムの価値を高め、新しい価値を提供している。
- 2 人々を魅了し、未来を見つめる法人となっている。
- 3 地域から信頼と信用を得ている。

§4 外部環境及び内部環境

1 外部環境

- (1) 上部団体「三重YMCA」という、三重県でのYMCA運動の推進母体をもつ。（2017年6月発足）
- (2) 野外活動等の団体活動に参加させたいと願っている親は多い。一方で、家族中心も活動が盛んである。  
また、団体活動に参加しても、友達同士で行動するパターンが増加している。子どものとき、自然と触れ合う体験をした人は、成人してからも他人と円滑なコミュニケーションをとることができるという報告がある。（『子どもの体験活動の実践に関する調査概要』独立行政法人国立青少年教育振興機構）
- (3) 内容だけではなく、安心・安全の面で信頼できる幼稚園や諸活動が選ばれるようになっている。
- (4) プログラム参加者の保護者の世代は、その団体の目的や理念よりも、その団体が何をしているか、その意味を理解して活動する、応援したいと思っている等の特徴をもつ。
- (5) 幼児期からの英語教育に関心が高まっている。また企業の海外進出により、英語によるコミュニケーション力が求められている。

- (6) ホームティーチャー、子どもの英語教室が増加している。受講生を確保するために他教室と競争が激しく、差別化が求められている。
- (7) 女性の社会進出が普通になり、安心して働くための環境が求められている。
- (8) 商品の生産は、大量生産型（少量品種大量生産型）から、各自の好みに応じて選択ができる少量多品種生産型へと変化している。このため、一律の内容を提供するのみでは受講生確保がむつかしくなっている。
- (9) 公益法人制度改革を機に、寄付文化の醸成が図られている。
- (10) ボランティアをとおして、地域や社会の活動に参加することを希望する人が多い。  
(地域や社会との関係性を大切にしている人々が増加している。)
- (11) コンプライアンスの遵守が求められている。
- (12) 幼児教育の無償化が始まる。(2018年4月：認可施設、8月頃：無認可施設)
- (13) 社会福祉法人に「地域における公益的な活動」が義務付けられた。(2016年4月)
- (14) 全国のYMCAは、ブランディングを展開している。新しいYMCAが打ち出されている。

## 2 内部環境

### (1) 強み

- ア 経営理念をもっている。
- イ 幼稚園に組織を集中してことで、適正な規模になっている。
- ウ 幼児教育をとおして地域の信頼がある。
- エ 幼稚園は、通常保育の他に、早朝保育、延長保育、夏冬休みの預かり保育を行い、保育園機能を併せもつ園となっている。
- オ 幼稚園には、外国人講師が常駐し、野外活動にも同行することで、英語に触れ合う機会が多く、他園との差別化ができています。
- カ 幼児学童教育、野外活動事業は、長い歴史と経験を持っている。
- キ 幼稚園スタッフは、豊富な実務経験と資格をもっている。
- ク 各部門のスタッフ・理事者・評議員の士気は高い。また財団法人の存続に取り組んでいる。
- ケ 講師・リーダーと保護者・生徒は、活動全般をとおして良好な信頼関係にある。
- コ 諸活動、教室は、リピータが多く、口コミによる参加者が多い。
- サ キッズステーションという活動拠点をもっている。
- シ キッズステーションは、近鉄阿倉川駅に近い。
- ス キッズステーションは、地域の中心にあり、周辺地域は住宅が増加している。
- セ 財団法人は、英語学校というイメージが強い。
- ソ 無認可施設として届け出ができています。(2017年12月11日)

### (2) 弱み

- ア 総主事が不在であり、リーダーシップが欠けている。
- イ 経営環境の変化をとらえるに遅く、対応が遅れる。
- ウ 理事者は高齢化しているが、クリスチャン条項から後任の確保がむつかしい。教会と疎遠になっている。
- エ 職員も高齢化が進んでいる。
- オ 人材がおらず、また情報不足のため、新規の企画ができない。
- カ 語学教室は、競合する教室が多く、生徒確保が困難になっている。
- キ 三重YMCAは、英語学校というイメージが強く、青少年団体の側面が薄い。
- ク 理事者・評議員は、理念を優先して事業を考え、収益性の視点が不足している。
- ケ 財団法人は、利益をあげてはいけなく、という先入観がある。またそれを収益低下の理由にする。
- コ 銀行返済は終了したが、個人からの借入金や未払金が多く、債務超過となっている。
- サ 資金繰りは、概ね安定しているが、必要な額を保有しているとは言えない。
- シ 幼稚園の土地は借地であり、2023（平成35）年12月に終了する。代替地の確保もしくは土地買取りに必要な資金の確保が必要である。

#### § 5 経営目標（2016～2018年度）

経営ビジョンを達成するため、外部環境、内部環境を踏まえて、次の目標を実現する。

- 1 スタッフ及び支援者のサポートにより、プログラムが推進されている。
- 2 全国YMCA、地域、教会とのネットワークが成立している。
- 3 「三重YMCA」のもと、各法人が協働している。

#### § 6 経営方針

次の方針のもと、業務を推進する。

- 1 「三重YMCA」に積極的に関わり、事業の枠を拡大する。
- 2 全国、近隣YMCAのコンサルタントを受ける。
- 3 新機軸となるプログラムを実施し、収支の安定をはかる。
- 4 地域社会や教会との連携を進める。
- 5 理事者の後継者獲得に取り組む。

#### § 7 2018年度予算（案）

別紙1を参照

#### § 8 目標利益計画及び月別目標利益計画

別紙2を参照

#### § 9 主要政策及び行動計画

別紙3を参照

以 上